修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）6－36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人　全国修学旅行研究協会の趣意書から）

第3回全修協 修学旅行セミナー開く

修学旅行の基本問題と今日的課題を究明

セミナーで講演する文部省高橋教科調査官

㈶全国修学旅行研究協会では、独自の構想に基づいて、昭和六十一年以来毎年その時点での重要課題をテーマに、学識経験者を講師に招いて、修学旅行研究協議会を開催してきた。

今年は三回目を迎え、想を新たに一段の充実を期して、「全修協修学旅行セミナー」と改称し、文部省の後援を得て、「修学旅行の基本問題とその今日的課題の究明」をテーマに、九月九日、十日の両日、神奈川県箱根で開催した。

初日は㈶全修協山本理事長のあいさつのの、筑波大学教授加藤隆勝氏の「管理から自主へ、こどもの生かし方―校則をめぐって」および、文部省教科調査官高橋哲夫氏の「修学旅行と安全確保は不可分―修学旅行の安全対策」と題する、いずれも格調高い講演があった。

引き続いて行われた研究協議では、両講師の講演を中心に一問一答方式で進められ、講演の内容が一段と具体的に深められた。

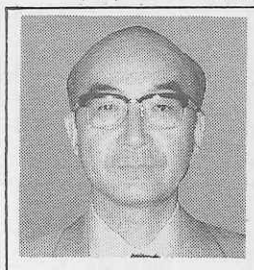
翌日は全修協から基調提案および問題提起を発表し、研究討議を行った。提起された問題はいずれも広範囲のもので、時間的制約もあり、これを懸案事項として今後の実践に生かすことを申し合わせ、二日間にわたるセミナーを終了した。

◇

両講師の講演の要旨は左上および2面に、基調提案と問題提起は本紙前号にそれぞれ掲載した。

管理から自主へ
こどもの生かし方
――校則を中心として

筑波大学教授　加藤隆勝



・「青年」という言葉
明治十三年、YMCAの創立のさい、ヤングメンを青年と訳したといわれている。しかし幕末の漢学者がすでに青年という言葉を使い、明治七年の文部省の「教育雑誌」でも使われている。「青年」が社会的に認識されたのは古いものではない。

・青年の見方
明治維新は青年の時代であったが、社会体制が確立するにつれ、青年の堕落が問題となる。しかし、青年の問題性は青年の成長過程に必然的に伴うものという認識もあった。

青年は直情径行のきらいがあり、それが特色でもあるが、その言行はそれなりの理由もある。青年の教育には常に緊張感が伴う。教育者は生徒の立場に立つことが大切であり、教師自身の立場を固執すると弊害も多い。

・自由と強制の対立は歴史的
歴史的にみると、教育の方法として自由と強制の対立した理論が存在する。これの一方のみに偏するのではなく、両者の統合と調和が必要である。躾とか規律の社会的要請が強まると、青年の自然の成長が阻害される。一方、社会的自主性を伸ばすことも大切なのである。

・低次元の自主性
青少年の実態は自己中心的で、わがままで、基本的躾、奉仕の精神、罪の意識等に欠けている。また自主性がなく依存的で（独立に対して）、受身で（積極に対して）、他律的で（自立に対して）、セルフコントロールができない。戦後の自主性の開発はこの程度でとどまっている。

・自己規制が伴う自主性を
マスローによれば、人間は生理的欲求から安全への欲求、愛情と所属への欲求、自尊心への欲求から自己実現の欲求へと進むものである。動機が自発、興味から出れば、自主性は高い次元の自己規制ができるまでに成長する。本来の自主性は社会性と一体である。

・自主性と規律の統合
自主性と規律を統合するには、集団生活の機会を豊富に与えることである。その上に選択の余地を多分に含む、幅のある規則を示すことが大切である。発達段階に応じて、子どもに責任をとらせることが必要ではなかろうか。

・学習性無力感とピグマリオン効果
近頃学習性無力感が話題となっている。動物実験によれば、度々電気ショックを与えるとショックから逃げることをあきらめてしまうことが明らかにされた。逆に教師が期待をもって生徒に接すると、生徒の向上を促す「ピグマリオン」効果というのが話題となっている。低学年児童の成績が、教師の期待によって上昇したとの実験報告もある。この二通りの事例は、生徒指導の際、十分心得ておきたいものである。

望ましい自主性を開発するには手間もかかり時間も要するが、集団活動を通して地道に指導されたい。

（講演要旨、文責編集部）

会長に竹島康夫氏
あおぞら号近畿地区運営協議会

【関西支局】「あおぞら号」近畿地区運営協議会（沼守輝夫会長・前大阪市立明治小学校長）の総会が九月二十七日大阪で開催された。

会には沼守会長ほか各委員、㈶全修協からは山本理事長、瀬尾大阪支部長、大友大阪事務局長、北條修学旅行部長が出席し、経過報告後、①昭和六十二年度近畿学童共催会決算報告②六十三年度役員改選③六十五年度輸送計画（申し込み案を含む）の議案が提出され、それぞれ決定された。

初めに沼守会長のあいさつ、続いて山本理事長のあいさつがあり、あおぞら号創設当初、三府県（大阪府、兵庫県、奈良県）校長会の要望をうけて㈶全修協が主動的に近鉄と交渉して誕生したいきさつの説明があった。ついで近畿学童共済会の決算報告ならびに監査報告が承認された。

次に役員改選に移り、会長に竹島康夫氏（大阪市立西天満小学校長）が選ばれ、各新役員が選出された。

沼守氏の功績に対し理事長から記念品が贈呈された後、新会長のあいさつがあった。

昭和六十五年度あおぞら号輸送計画（電車とバス）について細部にわたり検討、学校毎の希望（申込書）を十一月十二日までに当該府県の事務局に送付することになった。運営協議会としては六十四年一月十五日までに六十五年度輸送計画を発表する予定である。なお、六十二年度乗車実数は五百校、六万三千九百二十五名であった。

あおぞら号は近畿、東海地区小学校の伊勢方面修学旅行専用車として㈶全修協、各府県小学校長会のバックアップにより昭和三十七年実現、二十六年間〝走る社会科教室〟として三百二十五万余名（近畿、東海地区）を安全かつ経済的に輸送して現在に至る。

なお、本協議会の要望に答え、近鉄では六十五年度も引き続き、新設列車あおぞら号（六両）のスピードアップ、ダイヤ改正、学習設備等の改善に努め、今後本協議会と協議することになった。

（本年度役員名は2面に掲載）

千葉県支部長に吉井　淳氏

㈶全国修学旅行研究協会の千葉県支部長に、十月一日付で吉井淳氏が就任した。

吉井氏は昭和二十四年千葉師範学校卒、千葉県内の中学校教諭、教頭、校長、県教育庁出張所長、課長、県中学校長会長を歴任し、昭和六十三年五月から㈶千葉県教育会館維持財団専務理事。

第5回全国修学旅行研究大会
11月25日　水戸で開催

財団法人全国修学旅行研究協会は、終始一貫、修学旅行の教育的水準の向上をめざす諸活動において、常に先導的役割を果しています。

特に昭和五十九年から全国的規模の修学旅行研究大会を主催し、今日的課題に応える生きた実践研究を提供し、修学旅行を通じての児童生徒の望ましい人間形成に努めてきました。

今回関東地区公立中学校修学旅行委員会と共催して「みんなが創る修学旅行」をテーマに、水戸市において「第五回全国修学旅行研究大会」を開催いたします。

今日、学習指導要領の改訂を間近に控え、特別活動の修学旅行もこれにかなう対応が求められています。

今回の研究大会はこれに応えるべく斬新な実践発表と、学習指導要領改訂の方向をめぐり、新しい教育に向け一歩を踏み入れようとするもので、全国から多数の先生方のご参加を期待します。

一、主催　財団法人全国修学旅行研究協会、関東地区公立中学校修学旅行委員会
二、後援　文部省、都道府県教育長協議会、茨城県教育委員会、栃木県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、水戸市教育委員会、茨城県校長会
三、協賛　関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
四、日時　昭和六十三年十一月二十五日㈮受付開始十三時、閉会十七時
五、会場　水戸市　茨城県立県民文化センター
六、研究テーマ　みんなが創る修学旅行
七、研究会次第
(1)研究発表（実践報告）
・生徒自身の生徒の手による修学旅行　土浦市立土浦第六中学校教諭　宮本千代子氏
・お互いを高めあうグループ別見学学習　日立市立豊浦中学校教諭　川上　徹氏
・生徒と教師がともにつくり、触れ、感じる修学旅行　下館市立下館中学校教諭　須藤和彦氏
(2)研究協議
(3)指導講評　茨城県教育委員会
(4)講演「学習指導要領改訂の方向について」文部省初等中等教育局教科調査官　高橋哲夫氏
八、参加申込先　㈶全国修学旅行研究協会、〒101東京都千代田区西神田二－八－七☎03・262・2932
参加費無料
参加を希望される方は前もってご連絡下さい。

風紋

武蔵野の面影を残す名刹〝平林寺〟のある埼玉県新座（にいざ）市は、三年前から米国人の講師を採用している。その講師が市内六中学校の全生徒に接した感想を紹介しよう▼彼等の印象は「ベリーヤングというより、幼児っぽい、小学生みたいだ」ということだ。同じ年齢の生徒を比べて、何故そう見えるのか、体格のちがいにもよろうが、米国では服装や髪形など細かい規則がないから、女の子など少しでも大人に見せようと、ピアスなどしている▼さらに大きな違いは、独立心の弱さだそうだ。日本の生徒に目立つのは「グループ志向」だとか。例えば授業中一人の生徒に質問すると、まわりの友だちに相談してから答える。これは米国では試験のカンニングと見なされる。日本人の先生に聞いたら「小学校の時からですよ」という▼バズセッション、グループ学習等々、仲間同士頼り合いの強調か、日本人は外国へ行っても集団をつくる傾向があると指摘されている。集団指向は現在の修学旅行でも受け継がれている。いやむしろ一頃よりグループ見学が本命の感さえする▼主体性、自主性を修学旅行の目的の第一にあげている学校が多い。何人かの米国教師の印象を即とり上げて、日本の教育を云々するのは早計だが、前段の管理主義に対する、後段の「独立心」についての指摘は、何か盲点を少々つかれたような気がする。国際人、国際理解が叫ばれ、修学旅行で高校生が海外へ進出する今日、主体性と独立心の相関について考えねばなるまい。

信頼される旅づくり

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。
先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえのないふれあいが、よき思い出として
ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号
本社　〒101　東京都千代田区神田松永町19-2　☎(03)255-7111㈹　支店　国内242ヵ所（登録）　海外13ヵ所

生徒指導と特別活動・修学旅行 〈56〉

全修協修学旅行セミナーから（1）

修学旅行と安全確保は不可分

文部省教科調査官　高橋哲夫

今回から二回に分けて、九月九日に開催された「第三回全修協修学旅行セミナー」における講演の内容について述べることにしたい。

◇

一、最近の文部省の修学旅行に関する考え方

(1)昭和六十二年九月、運輸省から「海外旅行倍増計画（テン・ミリオン計画）」が発表され、小学校はともかく、中・高等学校では、修学旅行の意義を多面的に見直す気運が生じた。

(2)昭和四十三年の小・中・高等学校の遠足・修学旅行に関する文部省通達は二十年を経過しているので、最近の動きから見直しが迫られ、昭和六十二年十月十九日、通達の再検討を都道府県教育委員会指導事務担当者連絡会議に提案した。

(3)テン・ミリオン計画や私立高等学校の海外修学旅行が漸増しているとき、これの対処について文部省は慎重を期した。昭和四十三年通達は航空機利用や海外修学旅行を禁止したものと解されていたふしがあるので、昭和六十三年一月十九日、都道府県教育委員会主管部課長会議の席上で、前出の通達は、航空機利用や海外修学旅行を禁じたものではないことを口頭で伝達した。これはこの件の検討が充分進んでいない段階であって、例えば東京都では時期尚早としており、これらを勘案し文書でなく口頭伝達と慎重を期したのである。

この辺の事情は、修学旅行の通達のみに限らず、学習指導要領の改訂の時期に合せて、特別活動、学校行事、修学旅行に関する幅広い関係者を集め、改めて通達の再検討の機会を持つ予定となっているためである。

(4)このような情況の下に三月二十四日、高知学芸高校の痛ましい修学旅行中の事故が発生した。

(5)文部省は直ちに三月三十一日、「修学旅行における安全確保の徹底について」の高石次官通達を出し、これに応じた。この通達をもって修学旅行の抑制と誤解される向きは、修学旅行新聞6月号のQ&Aを参照されたい。

(6)次下この通達の主旨にふれたい。

(イ)通達の記1の三行目に「意義ある教育活動」と文部省の考えを述べている。そのためにに事故があってはならず、安全確保に万全を期してほしい。

(ロ)通達の記2では「学校の管理機関等においては、平素から各学校に対して、修学旅行のもつ意義と留意点についての理解の徹底を図るとともに、各学校の修学旅行の計画の保持上無理なく適切なものであるかにつき、十分な実態の把握と必要な指導を行うこと」とある。留意点を念頭に一そう意義あるものとしてほしい。

(ハ)記3は安全確保の面で充分な計画を立てて、公・私立学校とも教育委員会等の所轄機関に申請しなければならない、としている。その際に、目的地、費用、日程等は計画決定前の段階から教育委員会と協議し、十分な指導を受けることが大切である。また、実地踏査は一回のみでなく、年度毎に行って、万全を期す必要がある。

（以下次号）

変わりつつある中国

現地研修に参加して

中国側と修学旅行の話し合い

九月十二日から七日間、㈶日中青少年旅行財団主催の教職員中国研修旅行に全修協を代表して参加、北京・西安・上海の三都市を訪問した。

参加者は私立高校関係者が中心で、団長田敏夫日中財団専務理事以下総員三十六名。心配していた天候も七日間晴天に恵まれ、ハードな旅程であったが、中国の人々の生活や多くの文化財に接すると共に、中国国家旅游局ならびに関係者との修学旅行についての会議、中・高校参観もでき、実り多い研修旅行であった。

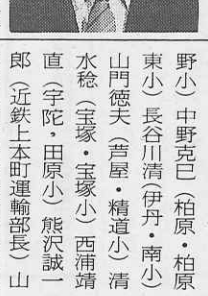
現在、中国は急速に変わりつつある。十年近く前に訪中したときと比べると、服装はカラフル化し、自転車の多いことは変わらないが、青い人民服はほとんど見られなかった。街には農民の自由市場が各所にみられ、観光地には中国人旅行者があふれていた。経済的に次第に豊かになりつつあることが肌で感じられた。

修学旅行については、受け入れに積極的で、ホテル、交通機関の整備、観光地の開発がすすめられている。

国際化時代といわれるなかで近隣諸国への修学旅行は必至であり、中国は最適地の一つである。しかし、旅程、経費、理解等々を考えると対象は高校であろう。小・中学校では、国際理解について正しく学習すると共に、修学旅行で国土学習を行うことが教育上大切である。こうした基礎の上に行われる高校での海外修学旅行は、より教育的で有意義なものとなる。

全修協では去る九月初旬に修学旅行セミナーを開催、二十一世紀を展望し、国際化時代での修学旅行や海外修学旅行にも少し言及したが、今後さらに修学旅行の基本ならびに国際化時代の中で、高い次元から海外修学旅行も含めて、修学旅行について問題提起を行っていくことが、修学旅行研究財団としての責務であることを痛感した。

㈶全修協大阪事務局長　大友　恭



あおぞら号近畿地区運営協議会・本年度役員名

昭和六十三年度役員は次のとおり（各小学校長、敬称略）。

▼会長＝竹島康夫（大阪・西天満小）＝写真

▼特別委員＝沼守輝夫（大阪・前明治小）

▼常任委員＝小谷義明（堺・三国丘小）藤岡太一（神戸・本山第三小）中本泰弘（大和高田・磐園小）油利清（京都・新道小）瀬尾武敏（全修協大阪支部長）荻巣史恭（近畿日本鉄道・鉄道総局上本町営業局企画部長）

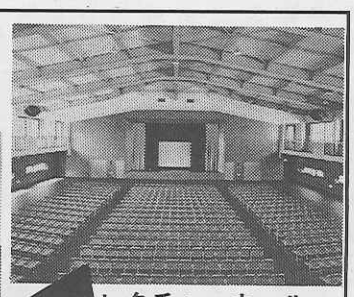
▼会計委員＝牧井至誠（豊中・克明小）

▼会計監査委員＝岡本憲明（神戸・板宿小）門脇弘通（桜井・桜井南小）

▼委員＝入江信男（大阪・曽根崎小）小宮武之助（大阪・阿倍野小）細川泰夫（大阪・九条東小）巽健男（大東・氷野小）中野克巳（柏原・柏原東小）長谷川清（伊丹・南小）山門徳夫（芦屋・精道小）清水稔（宝塚・宝塚小）西浦靖直（宇陀・田原小）熊沢誠一郎（近鉄上本町運輸部長）山本卓（近鉄営業企画課長）高橋克昌（近鉄運輸部運行課長）

▼事務主幹＝石塚広治（近鉄運輸部営業課長）曽田震五（全修協大阪事務局総務部長）

とびだせ自然へ
緑の箱根へ



レクチャーホール

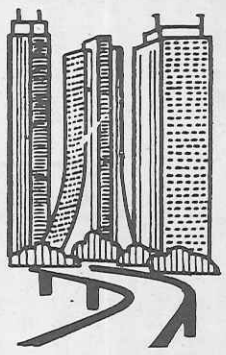
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)
箱根高原ホテル

さわやかな奥日光の高原で素晴しい
修学旅行の一夜をお過し下さい。

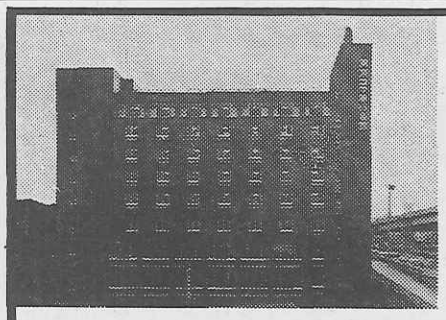
そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校

奥日光高原ホテル
〒321—16
日光市湯元2549—6
（TEL）0288—62—2121代表

首都東京を見て、何かを！



学校単位の貸切りで
ご利用下さい
30年の経験を生かす 50旅館 8000名収容
本郷の旅館へ
本郷旅館協同組合
〒113 東京都文京区本郷4—36—3 TEL 03—813—9381



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585—1046(代表)
東京 コマ旅行会館

豊かな自然と、科学の調和

本田技研鈴鹿製作所工場見学　地曳網　エンジン教室　潮干狩

見て、触れて、試す体験の旅

体験学習のご案内
●地曳網 ●潮干狩 ●伊勢形紙彫り
●茶摘み ●テーブルマナー
●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●エンジン教室

お問い合わせ・お申し込みは
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111